



かけこう通信

令和7年度 第6号
令和7年10月17日
島根県立三刀屋高等学校
掛合分校発行(文責:小川)

カケコーが「日本一」に！ ～2学期始業式～

8月28日(木)2学期始業式を行いました。

36日間の長い夏休みを終え、学校にはにぎやかな声が帰ってきました。連日の猛暑に悩まされる夏でしたが、インターハイレスリングに補助員として参加した生徒や、アルバイトに精を出した1・2年生、就職活動・オープンキャンパスへ出かけた3年生と、それぞれにしかできない様々な体験ができました。

始業式では、校長先生から、この夏のスポーツ観戦(インターハイ・甲子園等)から「流れ」についてお話がありました。「流れ」とは、ある一つのプレーの影響を受けて、その後の試合展開が変わっていく状況であり、たくさんの研究論文が存在しているそうです。

中でも、研究対象として最多はバレーボールで、そのうちの多くは明確な「流れ」が存在しないと結論付けているそうです。つまり、心理状態が絡むものを科学的に証明することは難しいということです。しかし、メンタルとパフォーマンスには一定の相関性があることは多くの人が経験上感じているのではないかと、という見解が述べられました。そこで生徒たちに、日常生活で「流れ」を意識しているか?と投げかけられました。人生は分岐と選択の連続であり、前向きな選択が「流れ」を引き寄せ、好循環が生まれるのではないかとまとめられました。

※ 校長先生の訓話内容はこちらから→



生徒たちには、1年で一番長く、たくさんの行事が目白押しの2学期を乗り切るために、この夏の経験を生かしてスケジュールを意識してもらいたいと願っています。

式後には、英語科の大野先生から、公益財団法人 日本英語検定協会が主催する「実用英語技能検定 令和6年度成績優秀者・優秀団体表彰式」の報告がありました。これは8月18日(月)に東京で行われたものですが、掛合分校は「ブリティッシュ・カウンシル駐日代表賞 団体の部【高校・高専 国公立の部】」で表彰されました。

ブリティッシュ・カウンシルは、文化芸術、教育、英語を通じて、イギリスとその他の国の人々の間につながりをつくり、理解と信頼を育みながら、平和と繁栄を築くための支援を行っているイギリスの公的な国際文化交流機関ですが、この賞は英検の取得率(英検取得者数÷在校生徒数)が最も高かった団体、つまり全国一の学校に贈られるものです。

当日の式には分校を代表して大野先生が出席されましたが、式場ではスポットライ

トを浴びながら緊張の面持ちで表彰を受けたとそのときの様子を述べられました。表彰状はこの日、校長先生から生徒代表へと手渡されました。まさに、掛合分校にいい「流れ」が来ていますね。

2学期初日から、充実した一日となりました。



「雪姫舞」収穫と台湾での販促へ向けて ～2年生営農体験実習(稲刈り)～



9月11日(木)に2年生が今年度2回目の営農体験実習(稲刈り)を行いました。前日まで続いた長雨に当日朝まで稲刈りできるか心配されましたが、当日は快晴、最高気温28℃の絶好のコンディションで無事に稲刈りを終えることができました。

吉田町民谷の宇山営農組合にお世話になり今年で5回目となる稲刈りは、5月9日(金)に2年生で稲を植えた田んぼを含めて3枚を、全員で、手刈りやコンバインを使って刈りました。また、今回はプロバスケットボールチーム「島根ササノオマジック」の榎本社長さんら職員の方々とも共同で稲刈りができました。これは、お世話になっている米穀店の藤本社長さんの計らいにより実現できました。

コンバインは初め、組合の皆さんと一緒に乗ってアドバイスいただきながら操作していましたが、恐る恐るながらも慣れてくると徐々に一人で運転できるようになってきました。

この収穫したお米は11月18日(火)に台湾研修の一環として、現地での「雪姫舞(つや姫)」の広報・販売活動において販売することを予定しています。



午前には、その広報・販売活動に向けて、これまでクリエイティブ・イベント・デジタル・マーケティングの4つの班でそれぞれ考えてきた計画や意気込み、販売戦略等の中間提案をし、宇山営農組合、市役所、藤本米穀店の皆さんからその助言や注意をしていただきました。企画のなかにはこれまでの先輩たちの取組や反省を元にし、「米みくじ」を作ったり、ドローンを使った田植え・稲刈りの風景や稲の生育状況の記録等をウェブサイト上で

公開することを目指したりするなど、新たな試みや工夫も見られました。

皆さんからは、「高校生と地域との交流活動を通して『つながり』を大切にしてほしい」「思いついたことはぜひやってみてほしい。後悔しないように準備し、あとの振り返りに生かしてほしい」とメッセージをいただきました。

11月16日(日)に出発する台湾研修までおよそ2か月、この実習を受けて準備もいよいよ佳境を迎えます。



すべてのものに感謝を ～学力育成事業トップセミナー～



10月8日(水)5・6限に学力育成事業「トップセミナー」を行いました。講師は、落語家として、またテレビや舞台でもナビゲーター・俳優としても幅広く活躍されている柳家 花緑(やなぎや かろく)氏をお迎えしました。

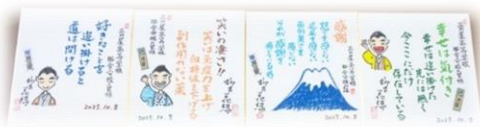
前半は、演目「つる」「時そば」の古典落語をそれぞれ披露していただきました。大半の生徒たちは初めて目の前で落語を聴きましたが、普段使う「ギャグ」とは異なり、「常識に対する非常識」で笑う「シャレ」の世界に次第に引き込まれました。その噺(はなし)の合間には花緑師匠の生い立ちや落語

界の詳細にも触れていただき、噺家の厳しさも垣間見ることができました。

後半は、「他人と比べない生き方の提案」を演題に講演していただきました。花緑師匠は、ADHD(注意欠如多動症)、ディスレクシア(識字障害)であることを公表され、これまでのご自身の経験やそこから得られた生活の工夫、前向きに歩むためのヒントについて語っていただきました。

特に、「学校は順位をつけるところであるが、そもそも比べる必要はない。比べるから発達に障害があることが生まれる。個性でいいじゃないか!」の問いかけには考えさせられました。また、次の言葉がたいへん印象的でした。

- ・『恋』はすぐに冷めるもの。『愛』は『心を受け入れる』と書く。『感謝』とは『愛』、心で感じること。」
- ・「当たり前なことは一つもない。すべてのことは当たり前ではない。」
- ・「人生に感謝すると『愛』が育っていく。だから『ありがとう』と言おう。」
- ・「『感謝』の反対は『がんばる』。『がんばる』は『我を張る』が語源であるから、その反対の『感謝』とは『協力し合う』という意味である。ぜひ『感謝を感じられる人』と巡り合えるように。」



このセミナーでは、生徒一人ひとりが自らの生き方や考え方を振り返る機会となりました。また、同じような困難を抱える生徒たちに日々の生活や学習に活かせる具体的なヒントをいただきました。



来校される皆さまへ

受付の際には、お名前、訪問日時等を受付簿へ記入し、名札を掛けていただきます。名札には分校のスタンプを押しています。また、北側校舎と南側校舎の間に侵入防止のため、カラーコーンとコーンバーを設置しています。何卒、ご理解、ご協力をお願いいたします。

学校安全の観点から、来校される皆さまへの対応方法を変更することとしました。保護者、地域の方、卒業生、業者の方等で来校される場合は、必ず事務(玄関)で受付をしてください。